

御坂西保育所トイレ改修工事

図面番号	図面名称	縮尺（A1）	図面番号	図面名称	縮尺（A1）	図面番号	図面名称	縮尺（A1）
01	表紙・図面リスト	N S	E-01	電気設備平面図	1/150	M-01	特記仕様書	N S
A-01	特記仕様書1	N S				M-02	案内図・配置図	1/400
A-02	特記仕様書2	N S				M-03	器具表	N S
A-03	特記仕様書3	N S				M-04	平面図	1/150
A-04	特記仕様書4	N S				M-05	平面詳細図	1/30
A-05	特記仕様書5	N S						
A-06	特記仕様書6	N S						
A-07	特記仕様書7	N S						
A-08	案内図・配置図	1/400						
A-09	平面図	1/150						
A-10	平面詳細図	1/50						
A-11	改修前展開図	1/50						
A-12	改修後展開図	1/50						

御坂西保育所トイレ改修工事		設計図	令和 7 年 8 月	
---------------	--	-----	------------	--

仕 様 書

I 工事概要

1. 工事場所

山梨県富次市御坂町夏目原870

2. 敷地面積

3. 建物規模

鉄筋コンクリート造・平屋建て 延べ床面積777.25㎡ 1階 777.25㎡

4. 工事内容

建物内既設大人用トイレを和式から様式に改修し、大人用トイレを新設する。
(1)既存大人用トイレ(2台)を和式から様式に変更し、大人用トイレ(1台)を新たに設置する
(2)トイレの配置に合わせて給排水、電気、コンセント、設備機器のスイッチ類等を移設する
(3)トイレは個室として使えるように壁面を設置する
(4)床面をトイレとして使用できるものに変更する
(5)その他必要な改修項目等

5. 工事範囲

※「3. 工事項目」すべてを工事範囲とする。
・「3. 工事項目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事項目はすべて今回工事範囲とする。

工事項目	工事項目			
㊦ 仮設工事	一式			
㊧ 防水改修工事	一式			
4-1 外壁改修工事 コンクリート打直し仕上げ外壁				
4-2 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁				
4-3 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁				
4-4 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁				
5 建具改修工事				
㊨ 内装改修工事	一式			
㊩ 塗装改修工事	一式			
8 耐震改修範囲以外の躯体改修工事				
耐震改修工事				
9 環境配慮改修工事				

II 建築改修工事仕様

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（令和4年版）」による。
また、改修工事に関しては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（令和4年版）」による。
工事関係提出書類等については、「工事関係提出書類一覧表（常備課）」（常備課HPに掲載）を熟読し、遺漏の無いように提出すること。（特に留意すべき事項については、特記仕様書に重複して記載している。）

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、ともに適用する。

(3) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(4) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(5) 特記事項に記載の(別2-)は、標仕の「別図2 ポルト間隔等及び溶接継手の開先形状」の該当項目を示す。

(6) □記は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。

3. 適用基準等

・建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備監修 令和4年版）

・工事写真ガイドブック（建築工事編及び解体工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成30年版）

・建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版）

・

特記事項	
<p>① 電子の納品</p> <ul style="list-style-type: none"> 「電子的成果品作成要領」による。 （県ホームページトップ＞県政情報・統計＞入札・公共事業関係＞電子納品＞電子納品要領（営繕課）＞営繕工事写真撮影要領（参照）） 完成図（製本版） 2部（A3縮小版） 注）その他の紙媒体による提出物については、監督職員と協議すること。 <p>② 技能士の活用を積極的に行うこと。また、施工計画書に技能士の指名・資格証明書を添付すること。 なお、防水工事及び塗装工事については、技能士の活用を必須とする。</p> <p>③ 現場への搬入路は、破損のないよう留意し、もしも破損した場合は速やかに復旧すること。</p> <p>④ 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に基づき、「山梨県グリーン購入の推進を図るための方針」により定められた次の資材に関しては、同法の判断基準を満たすものの採用に努め、建設機械については原則使用すること。なお、採用が困難な場合は理由書を添付して報告すること。（コスト、納期、使用部位へ適応性など）</p> <div data-bbox="825 317 1302 392"> <p>再生木質ボード（パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板） 陶磁器タイル、高炉セメント、フライアッシュセメント、再生加熱アスファルト混合物 再生骨材等、小径丸木材（間伐材）、排出ガス対策型建設機械</p> </div> <p>注）高炉セメント、フライアッシュセメントは鉄筋コンクリート造には使用しない。 注）再生加熱アスファルト混合物は積極的に採用する。（プラントから4.0km以内の現場）</p>	
<p>次の製品に関しては同法の判断基準を満たすものから選定すること。</p> <div data-bbox="825 495 1302 525"> <p>提示板、黒板、ホワイトボード、カーテン、カーベット</p> </div> <p>工事完了後、実績を報告すること。</p>	
<p>5 高炉セメントB種を以下の部位に使用すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ラップコンクリート 捨てコンクリート 場所打ちコンクリート杭地盤 外構工事等に伴う地中部分のコンクリート工作物 	
<p>⑥ 環境対策及び再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法を書面等により、明確にすること。 注）建設機械については、排ガス対策型の建設機械の使用を原則とする。</p>	
<p>7 工事特性・創意工夫・社会性等実施状況について（請負工事費500万円以上） 工事成績評定の対象工事について、請負者は、自ら立案・実施した創意工夫や技術力に関する項目、地域社会への貢献として評価出来る項目に関する事項を、所定の様式により事前に提出することができる。</p> <p>⑧ 工事の着手に先立ち、次の施工計画書を出すこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書 品質計画、一工程の施工の確認及び施工の具体的な計画を定めた工種別の施工計画書 <p>注）軽微な工種など、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は必要としない。 注）安全対策、使用材料、施工体制（下請け施工者の責任者等）を記載すること。</p>	
<p>⑨ 建設副産物実態調査について（請負工事費100万円以上） 請負者は、「再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書」を作成し、総合施工計画書に添付すること。 注）「建設リサイクル報告様式（計画書・実施書）（Excel様式）」の最新版（国土交通省ホームページ）で作成すること。</p> <p>工事完了後は、「再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書」を作成し、完成書類に添付すること。 また、電子データを電子媒体（CD、DVD）により監督職員に提出すること。なお、提出に当たっては、事前に「記入内容チェックツール」によるエラーチェックを行うこと。</p> <p>なお、建設副産物情報交換システム（GCBIS）の利用することも可能であり、その場合は電子データの提出は不要とする。 （入力内容については、システム上でチェックした上で、自社で1年間保管しておくこと。）</p>	
<p>⑩ 暴力団等からの不当要求及び工事妨害の排除について 請負者は、工事の施工に当たり、暴力団等からの不当要求及び工事妨害を受けた場合は、その旨を直ちに監督職員に報告するとともに、所轄の警察署へ届け出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。 この場合において、工費等を変更せざるをえなくなったときは、速やかに監督職員と協議すること。 また、請負者が不当要求等に関する報告を怠った場合は、「山梨県建設工事に係る指名停止等措置要領」に基づき、指名停止措置を行うこととする。</p>	
<p>11 地中埋設物について 設計図書を参考に、詳細に現地調査を行うこと。</p>	
<p>⑫ 居ながら工事について 施設利用者の安全に十分に配慮すること。 外壁等の吹付工事を行う場合は、十分な飛散防止対策を行うとともに、駐車車両についても車両用ビニールカバーで覆うなどの対策を行うこと。なお、飛散等による苦情及び被害があった場合は、施工者にて誠実に対応すること。</p>	
<p>13 ワンデレレスポンスについて（請負工事費5000万円以上） この工事は、ワンデレレスポンス試行対象工事とする。 受注者は、余裕を排した最適な工程を、作業ごとの関連、連動状況が把握できる方法により作成し、監督職員と協議する。 効果・課題等を把握するため、フォローアップ調査に協力すること。 注）ワンデレレスポンス 受注者からの質問、協議への回答について、原則1日（24時間）以内に回答すること。</p>	
<p>14 主任技術者又は監理技術者の専任について（請負工事費4000万円以上 建築一式は8000万円以上） 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。 なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）事務手続き、後片付け等のみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、請負者に通知した日（「完成検査結果通知書」等における日付）とする。</p>	
<p>⑬ 低騒音型建設機械の使用について 本工事において、原則「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針（昭和62年3月30日建設省経機第58号）」に基づき、低騒音型建設機械を使用する。 なお、低騒音型建設機械については、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成9年建設省告示第1536号最終改正平成20年国土交通省告示第361号）」に基づき指定された低騒音型建設機械を使用するものとする。 また、施工現場において指定機械であることを識別するラベルが確認できるように、建設機械を写真撮影し、監督職員に提出するものとする。</p>	
<p>⑭ 公共事業労務費調査について 当該工事が公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、監督官の指示によりこれに協力しなければならない。</p>	
<p>⑮ ゴム製品等について （1）ゴム製品等の品質確認等 東洋ゴム化工品（株）、ニッタ化工品（株）で製造された製品や材料を用いる場合には、契約時点で同社が製造するゴム製品等に対して発注者が指定した第三者（東洋ゴム化工品（株）、ニッタ化工品（株）と資本関係・人事面で関係がない者）によって作成された品質を証明する書類を提出し、監督官の承認を得るものとする。 なお、必要な品質証明書は、以下の試験および検査における、製品に応じた必要な規格について取得するものとする。</p>	

(2) ゴム製品等の品質確認をした場合における瑕疵担保の取扱い

第三者による品質証明書類を提出し監督員の確認を得た場合であっても、後に製品不良等が判明した場合の受注者の瑕疵担保責任が免責されるものではない。

(18) 週休2日制適用工事について

この工事は富坂市が指定する受注者希望型「週休2日制適用工事」であり、その取扱いに当たっては、令和5年5月1日から適用する「週休2日制適用工事実施要領」及び「営繕工事における週休2日促進工事の実施について（改定）（令和7年3月25日付、国土交通省大臣官房官庁営繕部）」（通期の週休2日）の「積算方法等」によるものとする。

(19) 法定外の労務保険の付保について

本工事において、受注者は法定外の労務保険に付さなければならない。

20 特例監理技術者について（請負工事費8000万円以上3億円未満（J等を除く））

本工事において、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特例監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（1）～（8）の要件を全て満たさなければならない。

(1) 建設業法第26条第3項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。

(2) 監理技術者補佐は、一級施工管理技術士補、又は一級施工管理技術士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定科目は、特例監理技術者に求める技術検定科目と同じであること。

(3) 監理技術者補佐は受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。

(4) 同一の特例監理技術者が配置できる工事の数は、本工事をきめ同時に2件までとする。（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工事に等しいに一体化が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事の工事とみなす。）

(5) 特例監理技術者が業務できる工事は山梨県内の工事であること。

(6) 特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行できること。

(7) 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取得される体制であること。

(8) 監理技術者補佐が担う業務等について、書面により明らかにすること。

特例監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合、又は配置を要しなくなった場合は適切にコリンズ（CORINS）への登録を行うこと。

(21) 現場環境の整備（快適トイレ）について

本工事は、快適トイレ設置の対象工事とする。実施にあたっては、「建設現場における快適トイレ設置に関する実施要領」に基づき、取り組みをとする。なお、受注者は同要領（実施方法）第4（2）により原則、工事着手前までに工事打合せ簿により発注者と協議を行い、監督職員の承諾を得て実施するものとする。

(22) デジタル工事写真の小黑板情報電子化について

デジタル工事写真の小黑板情報電子化は、受発注双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黑板の記載情報の電子的記入および、工事写真の偽造性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

本工事でデジタル工事写真の小黑板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の小黑板情報電子化対象工事（以降、「対象工事」と称する）とすることができる。対象工事では、以下の1. から4. の全てを実施することとする。

(1) 対象機器の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黑板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、山梨県土木整備部営繕工事写真撮影要領・同解説「3.工事写真の撮影」に示す項目の電子的記入ができること、かつ偽造性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。

偽造性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府」における誘導のために参照すべき暗号のリスト（CRYPTREC 暗号リスト）（URL <http://www.cryptrec.go.jp/list.html>）に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督員に対し、工事着手前に、本工事で使用機器について提示するものとする。

なお、使用機器の事例として、URL http://www.cals.jacic.or.jp/GIM/sharing/index_digital.html 記載の「デジタル工事写真の小黑板情報電子化対応ソフトウェア」を参照されたい。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

(2) デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入黒板情報を電子画像として同時に記録

受注者は、28-(1)の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、山梨県土木整備部営繕工事写真撮影要領・同解説「3.工事写真の撮影」による。

ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工程については、使用機器の利用を限定するものではない。

(3) 小黑板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、山梨県土木整備部営繕工事写真撮影要領・同解説及び国土交通省大臣官房官庁営繕部営繕工事写真撮影要領に準ずるが28-2に示す小黑板情報の電子的記入については、山梨県土木整備部営繕工事写真撮影要領・同解説「4.編集の禁止」及び国土交通省大臣官房官庁営繕部営繕工事写真撮影要領「4.編集の禁止」で規定されている写真編集には該当しない。

(4) 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、28-(2)に示す小黑板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黑板情報電子化写真」と称する。）を、工事完了時に監督員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者は URL (<https://www.jcmsia.org/kokuban/>) のチェックシステム（偽造性チェックツール）又はチェックシステム（偽造性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の偽造性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。

なお、提出された偽造性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

特 記 事 項	変			設 計 年 月: 2025. 08					工 事 名 称 御坂西保育所トイレ改修工事	図 面 名 称 特記仕様書 1	縮 尺 A3 : NS	図 面 番 号 A-01
	更			承		担		作				
	事			認		当		図				
	項											

										<div>Ⅱ．特記仕様</div> <div>(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。</div> <div>(2) 特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。</div> <div>⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。</div> <div>⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。</div> <div>(3) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。</div> <div>(4) 特記事項に記載の()内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。</div> <div>(5) ㊦印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」(以下「グリーン購入法」という)の特定調達品目を示す。</div>															
章		項 目				特 記 事 項																			
①		① 適用基準等				⓪ 建築工事標準詳細図(国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 最新版)																			
						⓪ 営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)																			
						・建築物解体工事共通仕様書(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版)																			
		2 工事実績情報の登録				※ 適用する [1.1.4]																			
③		③ 施工計画書				⓪ 工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し、監督職員に提出する																			
						⓪ 品質計画、一工程の施工の確認及び施工の具体的な計画を定めた工種別の施工計画書を、当該工事の施工に先立ち作成し、監督職員に提出する。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。																			
						⓪ 施工計画書の内容を変更する必要がある場合は、監督職員に報告するとともに、施工等にならないよう適切な措置を講じる。 [1.2.2]																			
						⓪ 建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。																			
						※風速 V0＝ (30) m/s (平12建告第1454号第2)																			
						※地表面粗度区分 ・Ⅰ ・Ⅱ ⊙Ⅲ ・Ⅳ																			
						・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()																			
		4 電気保安技術者				[1.3.3]																			
						工事現場における電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。																			
						・要 ・不要																			
		5 施工条件				[1.3.5]																			
						下記以外は現場説明書による。																			
						・工事用車両の駐車場所 ※図示																			
						・資機材置場 ※図示																			
						・建設発生土仮置場 ※図示																			
						・ ※図示																			
⑥		⑥ 発生材の処理等				※構外搬出適切処理																			
⑦		⑦ 環境への配慮				[1.4.1]																			
						化学物質を放散させない建築材料等																			
						本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の 1) から 5) を満たすものとする。																			
						1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。																			
						2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。																			
						3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。																			
						4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。																			
						5) 1)、3)及び 4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。																			
						また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。																			
						ホルムアルデヒド放散量 該当する材料																			
						規制対象外 ① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品																			
						② 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品																			
						③ 下記表示のあるJAS適合品																			
						a 接着剤等不使用																			
						b 非ホルムアルデヒド系接着剤使用																			
特記事項					変更事項					設計年月: 2025.08				工事名称				図面名称				縮尺		図面番号	
										承認 担当 作図				御坂西保育所トイレ改修工事				特記仕様書 2				A3 : NS		A-02	

①
一般共通事項

⑧ 材料の品質等

⑨ 特別な材料の工法

⑩ 施工数量調査

⑪ 技能士

12 化学物質の濃度測定

① 一般共通事項

② 仮設工事

③ 防水改修工事

⑬ 完成時の提出図書

14 設備工事との取合い

15 設計 G L

① 足場その他

② 既存部分の養生

3 仮設間仕切り

4 監督職員事務所

⑤ 工事用水

⑥ 工事用電力

① 既存防水層の処理

2 既存下地の補修

3 アスファルト防水

① 完成図
・既存図面修正
※作成する
提出部数 ※各2部 ・部 (A3版第二原図及び電子媒体 (CD-R))
種類 ※改修標仕表1.8.1による。ただし、種類は当該工事で該当する図面、表及び計画書とする。
※ 施工計画書 提出部数 ※1部 ・部
① 施工図 提出部数 ※1部 ・部
① 保全に関する資料 提出部数 ※2部 ・部

設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

※図示

① 内部足場 種別 ※きやつ、足場板等
・ 外部足場
防護シート ※設置する ・設置しない
材料、撤去材等の運搬方法 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種
既存部分の養生 ※ビニルシート等
既存家具等の養生 ※ビニルシート等
固定家具等の移動 ※行わない ・行う (図示)

仮設間仕切り等の種別
種 別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充填材 塗 装
・A種 ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・) 厚さ mm ※なし
・B種 ・木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) ※片面
※C種 単管下地 防炎シート
仮設扉 ※木製扉 ※合板張り程度 ※なし
・鋼製扉 ※片面フラッシュ程度 ・あり

※設ける
・構内に新設する (規模及び仕上げの程度は現場説明書による)
・既存建物内の一部を使用する
①設けない

構内既存の施設 ※利用できない ①利用できる ②有償 ・無償)
構内既存の施設 ※利用できない ①利用できる ②有償 ・無償)

既存保護層 (平場) の撤去 ・行う (範囲 ・図示 ・) [3.2.3]
既存防水層 (平場) の撤去 ・行う (範囲 ・図示 ・) [3.2.4]
立上り部の防水層撤去 [表3.1.1]
・ 行う (・POS (機械) ・POS I (機械) ・M4S ・M4S I
・S4S (機械) ・S4S I (機械))
露出防水層表面の仕上げ塗装除去 [3.2.6]
・ 行う (・M4AS ・M4AS I ・M4C ・M4D I ・L4X)
改修用ドレン [3.2.5]
①設ける (・POAS ・POAS I ・POD ・POD I ・POS ・POS I ・POX)
アスファルト補修の材料 ※JIS K 2207による3種 [3.2.2]
既存下地の補修箇所、範囲、数量等 ※図示 [3.2.6]

防水改修工の種類 新規防水層の種別 施工箇所
・PIB工法 ・B-1 ※B-2
・PIB I 工法 ・TIB I 工法 ・B I -1 ※B I -2
・P2A I 工法 ・A I -1 ※A I -2
・P2A工法 ・A-1 ※A-2
・M4C工法 ・C-1 ※C-2
・M3D工法 ・POD工法
・POD I 工法 ・M3D I 工法 ・D I -1 ※D I -2
・M4D I 工法
屋内防水 ・PIE工法 ・P2E工法 ・E-1 ※E-2 (保護層は図示による)

アスファルトの種類 ※3種 ・4種

4 改質アスファルトシート防水

5 合成高分子ルーフィングシート防水

6 塗膜防水

7 脱気装置

⑧ シーリング

9 とい

M3D、POD、POD I、M3D I 及びM4D I 工法の脱気装置 ※設ける ・設けない [3.3.3]
断熱工法の断熱材 [3.3.2]
※押出法ポリスチレンフォーム3種bスキン層付き 厚さ (mm) ※25
・ 厚さ (mm)
立上り部の保護材 [3.3.2]
・ 乾式保護材 ※押出成形セメント板 (厚さ15mm)
・ れんが ※JIS R 1250Iによるもの
・ 市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロック (見え隠れ部分)
・ コンクリート
防水改修工の種類 新規防水層の種別 厚さ (mm) 施工箇所
・M4AS工法 ・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J3
・M3AS工法 ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J2 ・AS-J4
・POAS工法
・M3AS I 工法 ・AS I -T1 ・AS I -J2
・M4AS I 工法
・POAS I 工法
M3AS I、M4AS I 及びPOAS I 工法の防湿層 ・設ける ・設けない [表3.4.3]
M3AS、POAS、M3AS I、M4AS I 及びPOAS I の脱気装置 [3.4.3]
・設ける ・設けない
防水改修工の種類 新規防水層の種別 施工箇所 仕上塗り塗料塗り 使用分類
・POS工法 ・S-F1 ・S-F2
・S4S工法 ・S-M1 ・S-M2
・S-M3
・POS I 工法 ・S I -F1 ・S I -F2
・S4S I 工法 ・S I -M1 ・S I -M2
・S I -M3
・S3S工法 ・S-F1 ・S-F2
・S3S I 工法 ・S I -F1 ・S I -F2
・M4S工法 ・S-M1 ・S-M2
・S-M3
・M4S I 工法 ・S I -M1 ・S I -M2
・S I -M3
脱気装置 ・設ける ・設けない [3.5.3]
目地処理 PCコンクリートの場合 () [3.5.4]
防水改修工の種類 新規防水層の種別 施工箇所 仕上塗り塗料塗り
①POX工法 ※X-1 ②X-2
・L4X工法 ・X-1 ※X-2
・図示 ・図示 ・図示
脱気装置 ・設ける ・設けない [3.6.3]
種 類 材 質 設置数量
・平場部脱気型 ・ポリエチレン樹脂 ・ABS樹脂 () m 当たり1箇所
・ステンレス鋼 ・鋳鉄
・立上り部脱気型 ・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂 () m 当たり1箇所
・ステンレス鋼 ・銅
シーリング改修工の種類 [3.1.4] [表3.1.2]
・シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法
・ 拡張シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法
シーリング材の種類 ※下表以外は、改修標仕表3.7.1による [3.7.2] [表3.7.1]
施工箇所 シーリング材の種類 (記号)
外壁・鋼製建具廻り PU-2
笠木 MS-2
屋根 PS-2
ブリッジ工法 ボンドブレーカー張り ・適用する [3.7.7]
エッジング材張り ・適用する
接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験 (部位:) [3.7.8]
といの材種 [3.8.2] [表3.8.1]
・ 配管用銅管
・ 硬質塩化ビニル管 (・VP ・RF-VP) [G]

設計年月: 2025.08
工事名称
御坂西保育所トイレ改修工事

図面名称
特記仕様書 3

縮尺
A3 : NS

図面番号
A-03

5

建具改修工事

15

軽量シャッター

16

オーバーヘッドドア

17

ガラス

開閉機能 ※上部電動式（手動併用） ・ 上部手動式 [5.10.2] [表5.10.1]

危害防止機構 ※障害物感知装置 （自動閉鎖型） [5.10.2]

一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける ・ 設けない [5.10.2]

開閉形式 ※手動式 ・ 上部電動式（手動併用） [5.11.2] [表5.11.1]

スラット 材質 ※JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） [5.11.3]

又はJIS G 3322（塗装溶融亜鉛-55%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）
・ 鋼板

形状 ※インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 [5.11.4]

ガイドレール等 ※鋼板製 ・ ステンレス製SUS304（厚さ1.0mm） [表5.11.2]

[5.12.2] [5.12.3]

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラストタイプ	開閉方式 ・ チェーン式 ・ 電動式	・スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーティカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板（SUS304）

耐風圧性能（ ）N/m 2

板ガラスの種類、厚さ等は建具表による
・ ガラスブロック [5.13.2] [5.13.5]

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色 調	防火認定
・ 正方形 ・ 長方形	・	・ 6.8	※クリア ・ 乳白色 ・ カラー（ ）	※なし ・ あり

ガラス留め材 [5.13.2] [表5.13.1]

建具の種類	材 種
アルミニウム、樹脂製	※シーリング材 ・ ガasket（FIX部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は、防火戸が建築基準法に基づき定められ又は認定を。
受けた条件による

板ガラスをはめ込む溝の大きさ [5.13.3]
改修標仕5.12.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は
（社）日本建築学会 JASS17 ガラス工事「納まり寸法標準」によるほか、
性能値が確認できる資料を監督職員に提出する。

ガラス用フィルム

名 称	種 類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム ・	第2種	※内張り ・ 外張り	飛散防止率 D1

品質JIS A 5759による

① 改修範囲

② 既存床の撤去並びに下地補修

3 既存壁の撤去並びに下地補修

4 木材 ㊥

5 集材材等 ㊥

6 床張り用合板及びその他の合板 ㊥

既存間仕切壁の撤去到に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3]
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・ 図示の範囲

天井内の既存壁の撤去到に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 [6.1.3]
※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・ 図示の範囲

天井の撤去到に伴う取合い部の壁面の改修 [6.1.3]
※既存のまま
・ 図示の範囲

・ 寄木フロア等の除去 ※仕上材のみ（接着剤共） [6.2.2]
・ 下地木組共（※図示の範囲 ・ 除去範囲すべて）
・ 合成樹脂塗床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法 [6.2.2]
○改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 [6.2.2]

間仕切壁撤去到に伴う他の構造体の補修 [6.3.2] [4.4.9]
※モルタル塗り（塗厚25mmを超える場合の補強 ※行う ・ 行わない）
・ 図示

表面仕上げの程度 ・ A種 ※B種 ・ C種 [6.5.1] [表6.5.1]
現場搬入時の木材の含水率 ※A種 ・ B種
保存処理木材 ・ 使用する（使用箇所： ） [6.5.2]
構造材及び下地材の品質の基準 ※改修標仕6.5.2(a)(2)(iv)による [6.5.2]
造作材の材面の品質の基準 ※A種 ・ B種 [6.5.2] [表6.5.4]
代用樹脂を使用しない箇所（ ） [6.5.2] [表6.5.4]

集材材及び単板積層材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 第三種 [6.5.2]
構造用集材材 [6.5.2]

施工箇所	品 名	強度等級	材面の品質	接着性能	樹種名	寸法（mm）
			・ 1種 ※2種 ・ 3種	・ 使用環境A ・ 使用環境B ・ 使用環境C		

構造用単板積層材 [6.5.2]

施工箇所	接着性能	曲げ性能	樹種名	寸法（mm）
	・ 使用環境1 ・ 使用環境2			

造作用集材材 [6.5.2]

施工箇所	樹種名	見付け材面の品質	寸法（mm）
		※1等 ・ 2等	

化粧ばり造作用集材材 [6.5.2]

施工箇所	心材の樹種名	化粧薄板の樹種名	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	寸法（mm）
				※1等 ・ 2等	

単板積層材 [6.5.2]

施工箇所	表面の品質	防虫処理	寸法（mm）
	※天然木化粧加工 ・ 塗装加工 ・ 化粧加工しない（・ 1等・ 2等・ 3等）	・ する ・ しない	

合板のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 第三種 [6.5.2]

普通合板 [6.5.2] [6.13.2]

施工箇所	厚さ（mm）	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	その他の処理
（床）	5.5		※1類 ・ 2類	広葉樹 ・ 1等 ※2等 針葉樹 ※C-D	・ する ・ しない	・ 難燃処理
（壁、天井）		・ ラワン ・ しな	・ 1類 ・ 2類		・ する ・ しない	・ 難燃処理 ・ 防炎処理

7 防腐、防蟻処理

⑧ 接着剤（内装改修工事全般）

9 軽量鉄骨天井下地

10 軽量鉄骨壁下地

11 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

構造用合板 [6.5.2]

施工箇所	厚さ（mm）	表板の樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理
（床）	12.0		・ 特類 ※1類	・ 1級 ※2級	※C-D .	・ する ・ しない

天然木化粧合板 [6.13.2]

施工箇所	厚さ（mm）	化粧板の樹種名	接着の程度	防虫処理	その他の処理
（壁、天井）	・ 3.2 ※4.2 ・ 6.0	・ なら ・ しおじ	・ 1類 ・ 2類	・ する ・ しない	難燃処理 ・ 防炎処理

特殊加工化粧合板 [6.13.2]

施工箇所	厚さ（mm）	化粧加工の方法	表面性能	加工面	接着の程度	防虫処理	その他の処理
（壁、天井）	※4.0 ・	・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装	・ F ・ FW ・ W ・ SW	・ 表面 ・ 両面	・ 1類 ・ 2類	・ する ・ しない	難燃処理 ・ 防炎処理

防腐処理 ※行う（※改修標仕6.5.2(h)(3)による ・ 図示 ） [6.5.5]
防蟻防虫処理 ・ 行う（※図示 ・ ） [6.5.5]
防腐、防蟻防虫処理剤の種類及び品質 [6.5.5]
表面処理用木材保存剤（防腐・防蟻剤）は監督職員の承諾するものとする。

[6.5.2] [6.5.4] [6.8.2] [6.9.3] [6.11.5.6] [6.13.2] [6.14.2] [6.16.3]
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、
レゾルシノール樹脂（以下「ユリア樹脂等」という）又はホルムアルデヒド系
防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・ 第三種
※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

野縁等の種類 [6.6.2] [表6.6.1]
屋外（・ 19形 ※25形） 屋内（※19形 ・ 25形）
既存の埋込みインサート ・ 使用する ・ 使用しない [6.6.4]
あと施工アンカーの引抜き試験 ・ 行う ・ 行わない [6.6.4]
屋外の軒天井、ピロティ天井等 [6.6.3.4]
野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離 ※図示
野縁の間隔 ※図示
耐風圧性を考慮した補強 ※図示
天井下地材における耐震性を考慮した補強 [6.6.4]
・ 行う（補強箇所 ※図示 補強方法 ※図示）

スタッド、ランナーの種類 ※改修標仕表6.7.1による ・ 図示 [6.7.3] [表6.7.1]
スタッドの高さが5mを超える場合 ※ 図示 [表6.7.1]

ビニル床シート及びビニル床タイルの特殊機能 [6.8.2]
帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10 ～1×10 Ω程度

耐動荷重 JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、
摩耗性試験、層間はく離強度試験（発泡層のあるビニル床シートのみ）及びキャスター性試験等の試験後、異常がないこと

ビニル床シート㊤

種 類	記号	施工箇所	色 柄	厚さ（mm）	特殊機能
ⓧ発泡層のないもの					

6

内装改修工事

12

カーペット敷き

13

合成樹脂塗床

ビニル床タイル

種 類	記号	施工箇所	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	特殊機能
・コンポジション ビニル床タイル (半硬質)	CT		※無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・コンポジション ビニル床タイル (軟質)	CTS		※無地 ・	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・ネオニースビニル床タイル	HT		※無地 ・	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・置ききビニル床タイル	HTL		※無地 ・	・500×500 ・	・	・帯電防止 ・耐動荷重

ビニル幅木

材質
高さ (mm)
厚さ (mm)

※軟質
※60
※1.5

・硬質
・75
・100

ゴム床タイル

色柄
厚さ (mm)
寸法

(
・3.0
(

・
・4.5
・6.0
・9.0
)

織じゅうたん

種 別

パイル形状
・A種
・B種
・C種

織り方
・カットパイル
・ループパイル
・カット、ループ併用

色柄等
※無地
・柄物
(標準品)

帯電性
※人体帯電圧
3kV以下
・

備 考

下敷き材

※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号

呼び厚さ8mm

タフテッドカーペット

パイル形状

・カットパイル
・ループパイル
・レベルループパイル
・カット、ループ併用

パイル長さ (mm)
※5～7
※4～6
※4
・

工 法
※全面接着工法
・グリッパ―工法

※人体帯電圧
3kV以下
・

備 考

下敷き材

※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号

呼び厚さ8mm

ニードルパンチカーペット

厚さ (mm)
帯電性
備考

※人体帯電圧3kV以下

タイルカーペット

パイル形状

※レーブパイル
・カットパイル
・カット、ループ併用

種 類
※第一種
・第二種

寸法 (mm)
※500×500
・

総厚さ (mm)
※6.5
・

帯電性
※人体帯電圧3kV
以下 (7リ-7ヶキス
707敷設範囲)

備 考

タイルカーペットの敷き方

平場
階段部分

※市松敷き
※模様流し

・模様流し
・市松敷き

見切り、押え金物

・適用する (材質、形状等 ※図示
・)

〔6.9.3〕

〔6.10.2〕〔表6.10.1～8〕

種 別

施工箇所

仕上げの種類

・弾性ウレタン樹脂系塗床材

※平滑仕上げ・防滑仕上げ・つや消し仕上げ

・エポキシ樹脂系塗床材

※薄膜流し展べ仕上げ
・厚膜流し展べ仕上げ (※平滑
・防滑)
・樹脂モルタル仕上げ (※平滑
・防滑)
・防滑仕上げ

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外
・第三種

〔6.10.2〕

14

フローリング張り

15

畳敷き

16

ポリスチレンフォーム
床下地材

17

せっこうボード及び
その他ボード張り

単層フローリング

〔6.11.2～7〕〔表6.11.1,3〕

種 類	樹 種	厚さ (mm)	大きさ (mm)	緩衝材	工 法
・フローリング ボード	根太張用 直張用	※なら ・	※15 ・	幅 ※75 長さ 400以上 ※合成樹脂 発泡シート ・	・釘留め工法 ・接着工法
・フローリング ブロック	直張用	※なら	※15	※303×303 ※合成樹脂 発泡シート ・	・モルタル 埋込み工法 ・接着工法
・モザイク パーケット	直張用	・なら ・	・8 ・	※合成樹脂 発泡シート	接着工法

単層フローリングのホルムアルデヒド放散量

※規制対象外
・第三種

天然木化粧複合フローリング

〔6.11.2,3,5,6〕〔表6.11.2,4〕

種 類	樹 種	種別又は 大きさ (mm)	防湿処理 又は緩衝材	工 法
・複合1種 ・複合2種 ・複合3種	根太張用 ・ 直張用	・A種 15以上 ・B種 12以上 ※C種 12以上	・防湿処理を行う	・釘留め工法
			※合成樹脂発泡シート ・	・接着工法

複合フローリングのホルムアルデヒド放散量

※規制対象外
・第三種

仕上げ塗装

・塗装品 ()
・無塗装品 (・塗装する 施工箇所 :)
種類 ※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインのうえワックス塗り
・生地そのままワックス塗り

〔6.11.6,7〕

〔6.12.2〕〔表6.12.1〕

下地の種類	畳の種類
・改修標仕 表6.5.9による床組	※B種
・ポリスチレンフォーム床下地	※C種

畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする

・A種 (ノンフロンのもの) 〔 〕

畳下地 厚さ (mm) ※40 ・65 ・80 (不燃)
フローリング類下地 厚さ (mm) ※80 ・95 (不燃)

種 類

JISの記号

厚さ (mm)、規格等

・せっこうボード

GB-R

・9.5 (準不燃) ⑩12.5 (不燃)
・15.0 (不燃)

・シーリングせっこうボード

GB-S

・9.5 (準不燃) ※12.5 (不燃)

・強化せっこうボード

GB-F

・12.5 (不燃) ・15.0 (不燃)

・せっこうラスボード

GB-L

9.5

・化粧せっこうボード (模様)

GB-D

9.5

・不燃積層せっこうボード

GB-NC

9.5 (不燃) ・化粧なし (下地張り用)
・化粧あり (トラバーチン
模様)

・けい酸カルシウム板

0.8FK
1.0FK

タイプ2 (無石棉)
・6 ・8

・ロックウール化粧吸音板

DR

※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12 ・)
※凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15 ・19)

・ロックウール吸音ボード1号

RW-B

・25

・グラスウール吸音ボード2号32K

GW-B

・25 (ガラスクロス包)

・硬質木毛セメント板 〔 〕

HW

・15 ・20 ・25

・普通木毛セメント板 〔 〕

NW

・15 ・20 ・25

・硬質木片セメント板 〔 〕

HF

・12 ・15 ・18 ・21

・普通木片セメント板 〔 〕

NF

・30

・単板張りパーティクルボード 〔 〕

・無研磨板 (VN) ・研磨板 (VS)
・10 ・12 ・15 ・18

・化粧パーティクルボード 〔 〕

・単板オーバーレイ (DV)
・プラスチックオーバーレイ (DO) ・塗装 (DC)
・10 (難燃) ・12 (難燃)

・ミディアムデンシティ
ファイバーボード 〔 〕

MDF

・素地MFD (RS)
・化粧MDF (・DV・DO・DC)

18

壁紙張り

19

モルタル塗り

20

タイル張り

21

セルフレベリング材
塗り

・ハードボード (素地) 〔 〕

HB

・3 ・7 ・9 ・12
・未研磨板 (RN) ・研磨板 (RS)
・2.5 ・3.5 ・5 ・7

・ハードボード (化粧) 〔 〕

HB

・内装用化粧 (DI) ・外装用化粧 (DE)
・2.5 ・3.5 ・5 ・7

・インシュレーションボード 〔 〕

IB

A級二次加工品
(・天井仕上 ・内装仕上 ・)
・9 ・12 ・15 ・18

・メラミン樹脂化粧板

JIS K 6903による 厚さ1.2

パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量

※規制対象外
・第三種

〔6.13.2〕

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材

※適用する
・適用しない

〔6.13.2〕

合板類の張付け

・A種 ※B種

〔6.13.3〕〔表6.13.3〕

〔6.14.2〕

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備 考
	紙	繊維 (繊維物)	プラスチック (ビニル)	その他 (化学繊維)	無機質		
図 示	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃	

壁紙のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外
・第三種

〔6.14.2〕

下地調整

モルタル面、プラスター面
コンクリート面
せっこうボード面

・RA種 ※RB種 (施工箇所 :)
・RA種 ※RB種 (施工箇所 :)
・RA種 ・RB種 (施工箇所 : 図示)

〔6.14.3〕〔表7.2.4〕〔表7.2.5〕〔表7.2.7〕

防水剤 (防水モルタル塗りの混入剤)

防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする。
(JIS A 1404による試験)

〔6.15.3〕

混合割合

凝結時間

曲げ及び圧縮強度比

吸水比

透水比

セメント重量

JIS R 5201の試験8において
始発 1時間以上
終結 10時間以内

70%以上

95%以下

80%以下
(294.0kPa
の水圧を
1時間か
ける)

安定性、膨張性のひび割れ及びそりがなくこと。(JIS R 5201の試験9)

吸水調整材は、4章2節 表4.2.2[吸水調整剤の品質]による。
既製目地材 ・適用しない ※適用する
床目地 ・設ける (工法 ※押し目地 ・)

〔6.15.3〕〔6.15.3〕〔6.15.6〕

タイルの種類

〔6.16.3〕

施工箇所	形状寸法 (mm)	うわぐすり 施ゆう無ゆう	吸水率 ⅠⅡⅢ	耐凍害性 ありなし	役物 ありなし	色 標準特注	再生材の 適用 〔 〕	備考
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がり (小口、標準、二丁、びょうぶ) の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き ※行わない ・行う

コンクリート素地面の目荒し工法 (高圧水洗) ・行う

〔6.16.3〕

内装壁タイル張りの工法

※壁タイル接着剤張り
・改良積上げ張り

〔6.16.4〕〔表6.16.5〕

〔6.17.2〕〔表6.17.1〕

・せっこう系 (施工箇所及び厚さ ※仕上表による ・図示 ・)
・セメント系 (施工箇所及び厚さ ※仕上表による ・図示 ・)

特記事項

変更事項

設計年月： 2025.08

工事名称

御坂西保育所トイレ改修工事

承認

担当

作図

図面名称

特記仕様書5

縮尺

A3:NS

図面番号

A-05

⑥

内装改修工事

22 浴室天井材

市販品

材 質	表面仕上げ	性 能	幅（mm）	備 考
※アルミニウム製	※焼付け塗装品	準不燃品	※200	回り縁はとい付きとし、製造所の標準品とする。
	・アルマイト処理品		・100	
・硬質塩ビ製	※塗装品		※300	
	・木目調		・100	

(20.2.2)

施工箇所	構 法	仕上り高（mm）	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上材	備 考
	・パネル構法		・1.0G	・3,000N	・帯電防止床タイル	
	・溝構法		・0.6G	・5,000N	・タイルカーペット	

耐震性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。

表面仕上材の品質、性能は、標仕19章による。

構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製

スロープ及びボーダー ※製造所の仕様による ・図示

配線用取出しパネル

フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※20～30%

配線取出し開口 ※パネル1枚につき40×80（mm）程度の開口1箇所以上 ・図示

空調用吹出し（吸込み）パネル

※なし

・あり（※固定式 ・可変式）：施工箇所（※図示 ・ ）

コンセント等の取付け対応 ※製造所の仕様による （コンセント本体は別途設備工事）

コンセントの箇所数 ※図示

ローリングロード性能 ※適用する ・適用しない

23 フリーアクセスフロア

24 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ（mm）	表面材種厚さ（mm）	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッ式（・内臓 ・露出）	・	※鋼板（※0.6 ・0.8）	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け	・あり（ ）	・あり
・スタッパネル式				・なし	
・パネル式					

(20.2.4)

遮音性能	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ	操作方法
・一般タイプ		※鋼板	・焼付け塗装	・手動式 ・電動式
		・	・壁紙張り	・部分電動式
・遮音タイプ（36db以上）		※鋼板	・焼付け塗装	
		・	・壁紙張り	

表面仕上げの壁紙張りの品質は18壁紙張りによる。

遮音性能はJIS A 6512の遮音性試験に準拠する。

25 移動間仕切

②⑥

トイレブース

26 トイレブース

(20.2.6)

材 種	幅（mm）	取付け工法	端部フラットエンド
・ステンレス製（SUS304）	・約35	※接着工法	※あり（※ビニル製・ステンレス製）
ビニルタイヤ入り	・	・埋込み工法	・なし

(20.2.6)

材 種	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
※集成材	※クリヤラッカー	・60 ・45	
・ステンレスパイプ	・HL		
・鋼製パイプ	・EP-G		
・ビニル製			

27 階段滑り止め

28 階段手すり

29 黒板及びホワイトボード

(20.2.8)

種 類	寸法（mm）	色 彩	備 考
・黒板	※焼付け		※緑・黒
		※緑・黒	
・ホワイトボード	※ほうろう		※白

(20.2.10)

区 分	材 質	寸法（mm）	厚さ（mm）	取付け高さ	書 体
・衝突防止表示（・両面 ・片面）	※ステンレス製	※30φ	※市販品	※図示	
	・図示	・	・	・	
・室名札	※アクリル板	※図示	※5	※図示	
・ピクトグラフ	・		・	・	
・扉番号					
・階数表示					
・建物案内板	※アクリル板	※図示	※5	※図示	
・各階案内板	・		・	・	
・					

案内用図記号はJIS Z 8210による。

誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とする。

30 表示

31 ブラインド

(20.2.12)

形 式	種 類	スラットの材質	スラットの幅（mm）	施工箇所
※横形	※ギヤ式 ・コード式	※アルミニウム合金製	※25	
	・操作棒式	・	・	
・縦形	・1本操作コード	・アルミスラット	・80	
	※2本操作コード	・クロススラット	・100	

(20.2.13)

材 種	操作方式	遮光性能	寸法（mm）	施工箇所	備 考
※ポリエステル	・電動式	・1級		・図示	防火性能 ※あり
・綿	・スプリング式	・2級		・	
・	・チェーン式	・3級			
		・			

(20.2.14)

形 式	開閉操作	ひだの種類	施工箇所	備 考
・シングル	・片引き	・電動		
・ダブル	・引分け	・ひも引き		
		・箱ひだ・つまひだ		
		・ブレーンひだ・片ひだ		
				（暗幕）

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・額縁タイプ
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・額縁タイプ
	・	・密閉形		・目地タイプ

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・ステンレス製	・600×600	・密閉形	・屋内用	・充填用
・鋼製	・	・結露防止形		・張物、充填兼用
・铸铁製				

32 ロールスクリーン

33 カーテン

(20.2.14)

形 式	開閉操作	ひだの種類	施工箇所	備 考
・シングル	・片引き	・電動		
・ダブル	・引分け	・ひも引き		
		・箱ひだ・つまひだ		
		・ブレーンひだ・片ひだ		
				（暗幕）

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・充填用
	・	・密閉形		・張物、充填兼用

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・充填用
	・	・密閉形		・張物、充填兼用

34 カーテンレール

35 ブラインドボックス及びカーテンボックス

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・充填用
	・	・密閉形		・張物、充填兼用

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・充填用
	・	・密閉形		・張物、充填兼用

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・充填用
	・	・密閉形		・張物、充填兼用

36 天井点検口

37 床点検口

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・充填用
	・	・密閉形		・張物、充填兼用

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・充填用
	・	・密閉形		・張物、充填兼用

(20.2.14)

材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
※アルミニウム製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・張物用
・	・600×600	・一般形	・屋内用	・充填用
	・	・密閉形		・張物、充填兼用

38 防煙垂れ壁

39 視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）

(19.2.2)

施工箇所	種 類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内	※塩化ビニル製	※300×300	※7.0
	・レジンコンクリート製	※300×300	
	・磁器又はせっ器質タイル	※300×300	
屋外	※レジンコンクリート製	300×300	※30
	・磁器又はせっ器質タイル	300×300	

ブロックパターンはJIS T 9251による。

40 くつふきマット

41 流し台ユニット

(20.2.14)

材 種	受 枠	備 考
・塩化ビニル又はゴム製	・ステンレス鋼（SUS304）	
・硬質アルミニウム合金製	・硬質アルミニウム合金	
・ステンレス鋼（SUS304）製	・	
・		

(20.2.14)

種 類	寸法（L＝mm）	適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200 ・1500 ・1800	トラップ付き	※優良住宅部品
・コンロ台	※600 ・700	バックガード ※あり	（セクショナルキ
・吊戸棚	※1200 ・900 ・600		ッチンⅠ型）
・水切棚	※1200 ・900	ステンレス製 ※1段式	※市販品

(20.2.14)

種 類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	JIS S 1039による	・1種 ・2種 ・3種
・鋼製物品棚		・4種 ・5種 ・6種

42 洗面カウンター

43 収納家具

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.14)

材 質	備 考
材質	[6.5.2][6.13.2]
形状・寸法	※図示
合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量	
※規制対象外	・第三種

(20.2.

7

塗装改修工事

3

錆止め塗料塗り

4

塗装

コンクリート面、ALCパネル面
(2-UE、2-ASE、2-FUEは除く)

※RB種

・ RA種

・ RB種

・ 行う

コンクリート面、押出成形セメント板面
(2-UE、2-ASE、2-FUEの場合)

・ RA種

・ RB種

・ 行う

せっこうボード面、その他ボード面

・ RA種

・ RB種

錆止め塗料塗りの種別等

[7.3.2.3]

[表7.3.1~4]

塗装面		塗料種別	工程種別	備 考
鉄鋼面	屋外	※A種 ・ B種	※C種	
	屋内	・ A種 ※B種	※C種	
		C種	※C種	EP-Gの場合
亜鉛めっき鋼面	塗替え	※A種 ・ B種	※C種	
		C種	※C種	EP-Gの場合
	新規（鋼製建具を除く）	※A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	
		C種	・ A種 ・ B種	
	新規鋼製建具	※A種 ・ B種	A種	EP-Gの場合 2-FUEは除く

[7.4.1~7.15.2]

[表7.4.1~7.15.1]

塗装の種類	塗装面	工 程	
		塗替え	新 規
・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部	※B種	※A種
	鉄鋼面	※B種	・ A種 ・ B種
	亜鉛めっき鋼面	※B種	※B種
	(鋼製建具を除く)		
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※A種	※B種
・クリヤラッカー塗り (CL)	木部	・ A種 ※B種	・ A種 ※B種
	屋内木部	※B種	・ A種 ・ B種
・フタル酸樹脂エナメル塗り (FE)	屋内鉄鋼面	※B種	・ A種 ・ B種
	屋内亜鉛めっき鋼面	※B種	・ A種 ・ B種
	屋内コンクリート面	※B種・A種	※B種 ・ A種
・アクリル樹脂系水分散系塗料塗り (NAD)	屋内モルタル面	※B種・A種	※B種 ・ A種
	鉄面	※B種・A種	・ A種
・耐候性塗料塗り (DP)	屋外亜鉛めっき鋼面	(上塗材の	・ A種
	コンクリート面	等級：3種)	・
	押出成形セメント板面		・
○つや有合成樹脂エマルションペイント塗り (EP-G)	屋内木部	※B種	※A種
	屋内鉄鋼面	※B種	・ A種 ・ B種
	屋内亜鉛めっき鋼面	※B種	・ A種 ・ B種
	コンクリート面	※B種	・ A種 ・ B種
	モルタル面・プラスター面	※B種	・ A種 ・ B種
	せっこうボード面	※B種	・ A種 ・ B種
	その他ボード面		
・合成樹脂エマルション塗り (EP)	屋内のコンクリート面・モルタル面	※B種	・ A種 ・ B種
	せっこうプラスター面	A種	・ A種 ・ B種
	・せっこうボード面等		

9

環境配慮改修工事

1

アスベスト含有建材の処理工事

分析によるアスベスト含有の調査

[9.1.1]

・ 行う（採取箇所 ※図示）

調査方法

材 料 名	調査方法（1材料当たりの試料数）
	※定性分析（※3 ・ ） ・ 定量分析（・3 ・ ）
	※定性分析（※3 ・ ） ・ 定量分析（・3 ・ ）
	※定性分析（※3 ・ ） ・ 定量分析（・3 ・ ）

分析方法

※JIS A 1481（建材製品中のアスベスト含有率測定方法）による

分析結果については、監督職員に報告すること

報告書の様式

・（社）日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」

アスベスト粉じん濃度測定

[9.1.1]

・ 行う（測定箇所 ・ 図示）

測定時期、場所及び測定点数

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業室ごと)	備 考	
・	測定1		処理作業室内 施工区画周辺 又は敷地境界	各（2）点 計4点		
	測定2					
・	測定3		処理作業室内 セキュリティゾーン 入口	各（2）点 各1点	空気の流れを確認 除じん装置の性能確認	
	測定4		負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	各1点		
・	測定5		施工区画周辺 又は敷地境界	4方向各1点		
	測定6					
・	測定7		処理作業室内 施工区画周辺 又は敷地境界	各（2）点 4方向各1点		
	測定8					

(1) 施工区画とは、処理作業室、セキュリティゾーン、廃棄物置場、資材置場等を含む本処理工事に直接又は間接的に係る区画、施工区画周辺とは、その区画境界の前後1m以内の範囲をいう。

(2) 処理作業室の面積が50m2以下の場合は2点、300m2までは3点とする。300m2を超える ような場合は、監督職員と協議する。

測定方法

JIS K 3850-1（空気中の繊維状粒子測定方法-第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法）による。

種類

※位相差顕微鏡法

試料採取フィルターを二分割し、一方を位相差顕微鏡法用として使用し、他方はその結果が高い場合（10本/L以上）に行う位相差・分散顕微鏡法用に保存しておく。

・位相差、分散顕微鏡法

測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

	測定3 (作業環境)	測定1, 4, 5, 7 (室内環境)	測定2, 6, 8 (大気環境)
メンブレンフィルターの直径 (mm)	25	25	47
試料の吸引流量 (L/分)	1	5	10
試料の吸引時間 (分)	5	120	240
計数視野数	50	50	50
定量限界 (本/L)	50	0.5	0.3

測定記録項目

(1) 除去するアスベスト含有建材の種類

(2) 測定点の位置の図面

(3) 測定日時、天候、気流

(4) 試料採取条件

(5) 標本作製方法

(6) 使用顕微鏡の種類（開口数を含む）

(7) 計数条件（HSEテストスライドの読取りグループ番号を含む）

(8) 繊維数濃度（位相差顕微鏡法の場合は総繊維数濃度、位相差・分散顕微鏡法の場合はアスベスト繊維数濃度）

(9) 定量限界





(10) その他

2

外断熱改修工事

断熱材の種類

[9.3.2]

種 類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド 放散による区分	厚さ (mm)
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・ A種 	F☆☆☆☆等級	・
・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材	・ A種 	F☆☆☆☆等級	・
・ 硬質ウレタンフォーム保温材	・ A種 	F☆☆☆☆等級	・
・ フェノールフォーム保温材	・ A種 	F☆☆☆☆等級	・
・ ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・
・ グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・

外装材の種類

[9.3.2]

種 類	防火性能
・	

既存外壁の仕上材の撤去

・あり ・なし

[9.3.3]

下地面の清掃及び下地調整

※断熱材製造所の指定する仕様

[9.3.3.4]

通気層

・あり (mm) ・なし

[9.3.4]

試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。

[9.3.4]

特記なき事項は、製造所の仕様による。

複層ガラスの厚さ

建具表による

[9.4.2]




複層ガラスの断熱性・日射遮蔽性による区分

※U3-1 ・ U3-2

[9.4.2]

断熱・防露改修工事

[9.5.2.3]

種 類		発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所
打込み工 法	・ ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 	
	・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材	・ 保温板2種b	A種 	※25 ※一般部
		・ 保温板3種b (スキン層付き)		※25 ・ 接地部分
		・		
	・ 硬質ウレタンフォーム保温材			
現場発泡工 法	・ 吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種1  ※A種1H	難燃性を有するもの	※15 ・

植栽基盤及び材料

[9.6.1.2]

・屋上緑化軽量システム

芝及び地被類の種類等

※図示

工法

[9.6.3]

かん水装置

・設置する（工事区分は図示による）

既存保護層の撤去

・行う

透水性アスファルト舗装改修工事

[9.7.3]

路床の構成及び厚さ

・遮断層

厚さ (mm)

※150

・凍上抑制層

厚さ (mm)

※150

・フィルター層

厚さ (mm)

車道部 ※150

歩道部 ※ 50

特記事項

変更事項

設計年月： 2025.08

工事名称

御坂西保育所トイレ改修工事

承認

担当

作図

図面名称

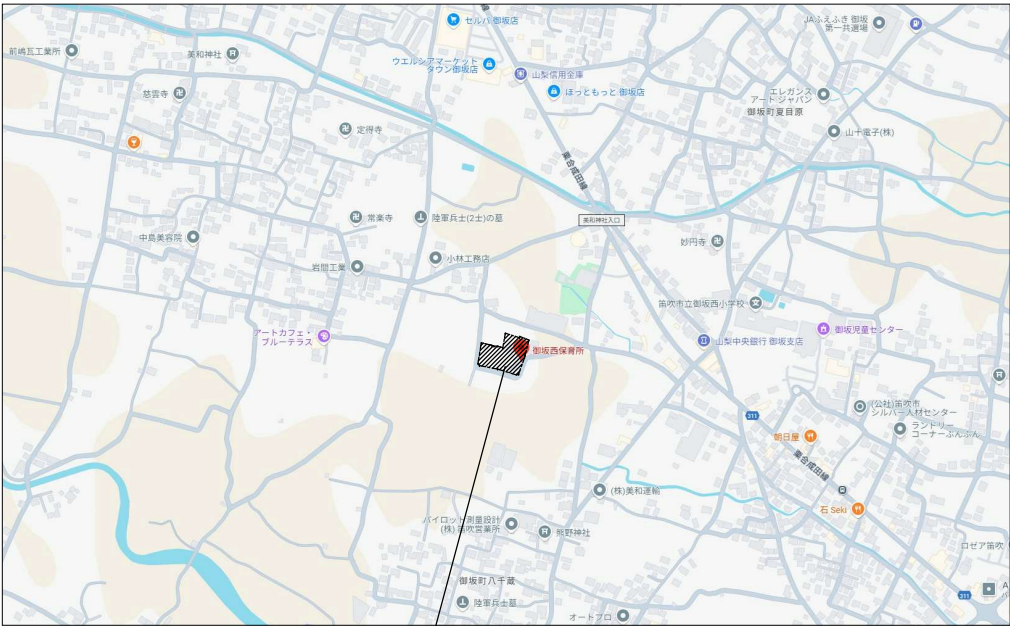
特記仕様書7

縮尺

A3:NS

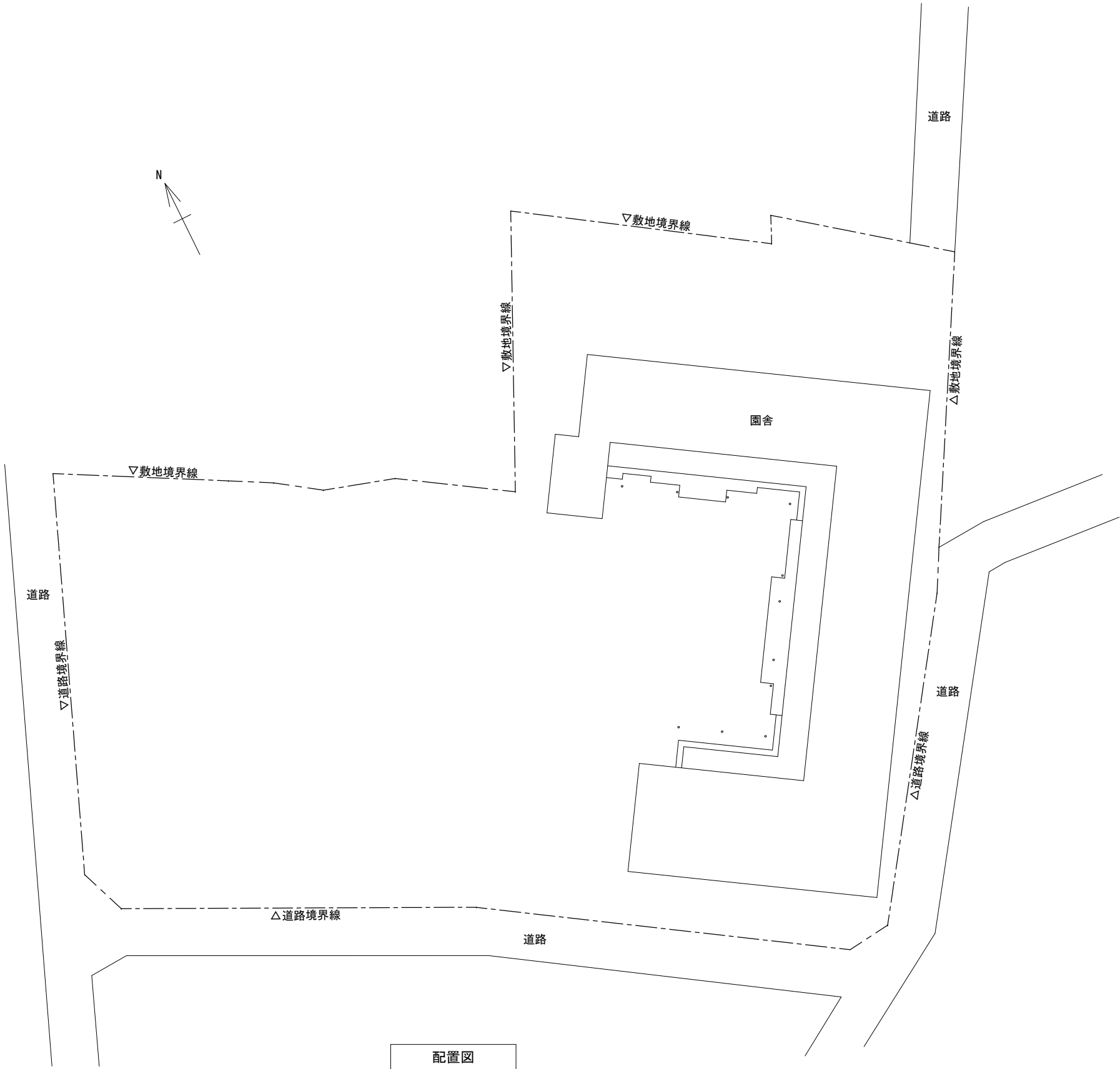
図面番号

A-07



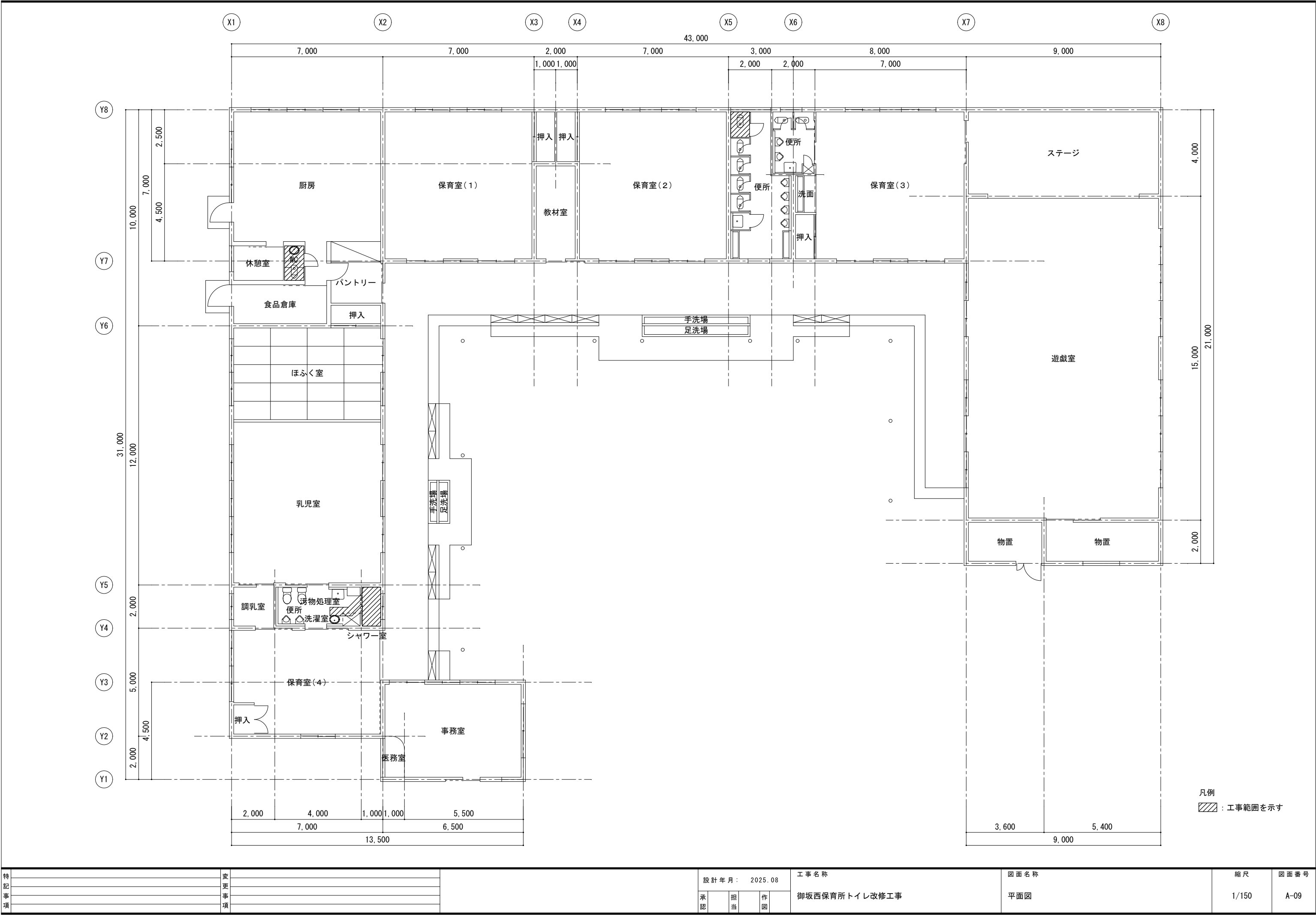
工事場所：笛吹市御坂町夏目原870

案内図

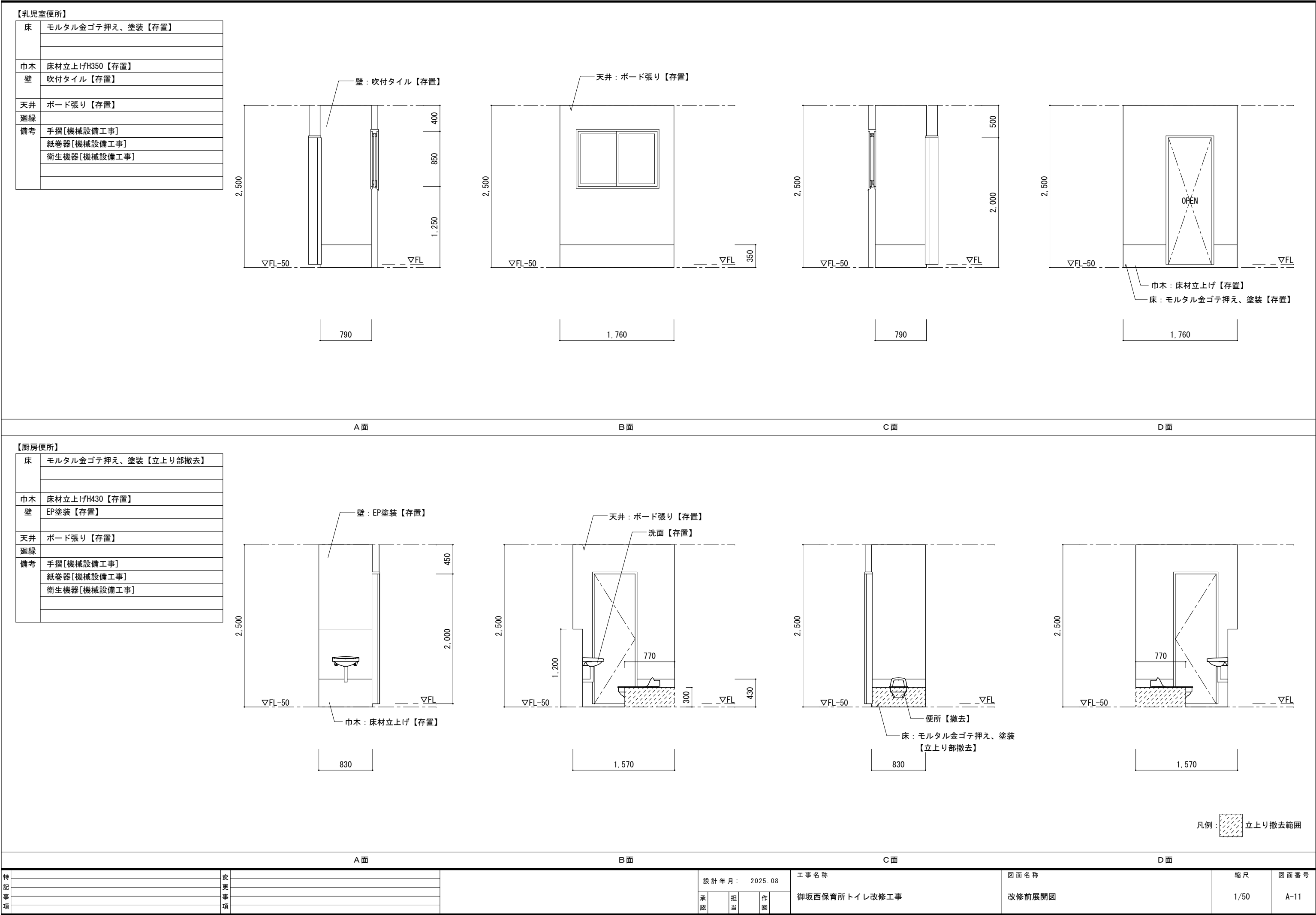


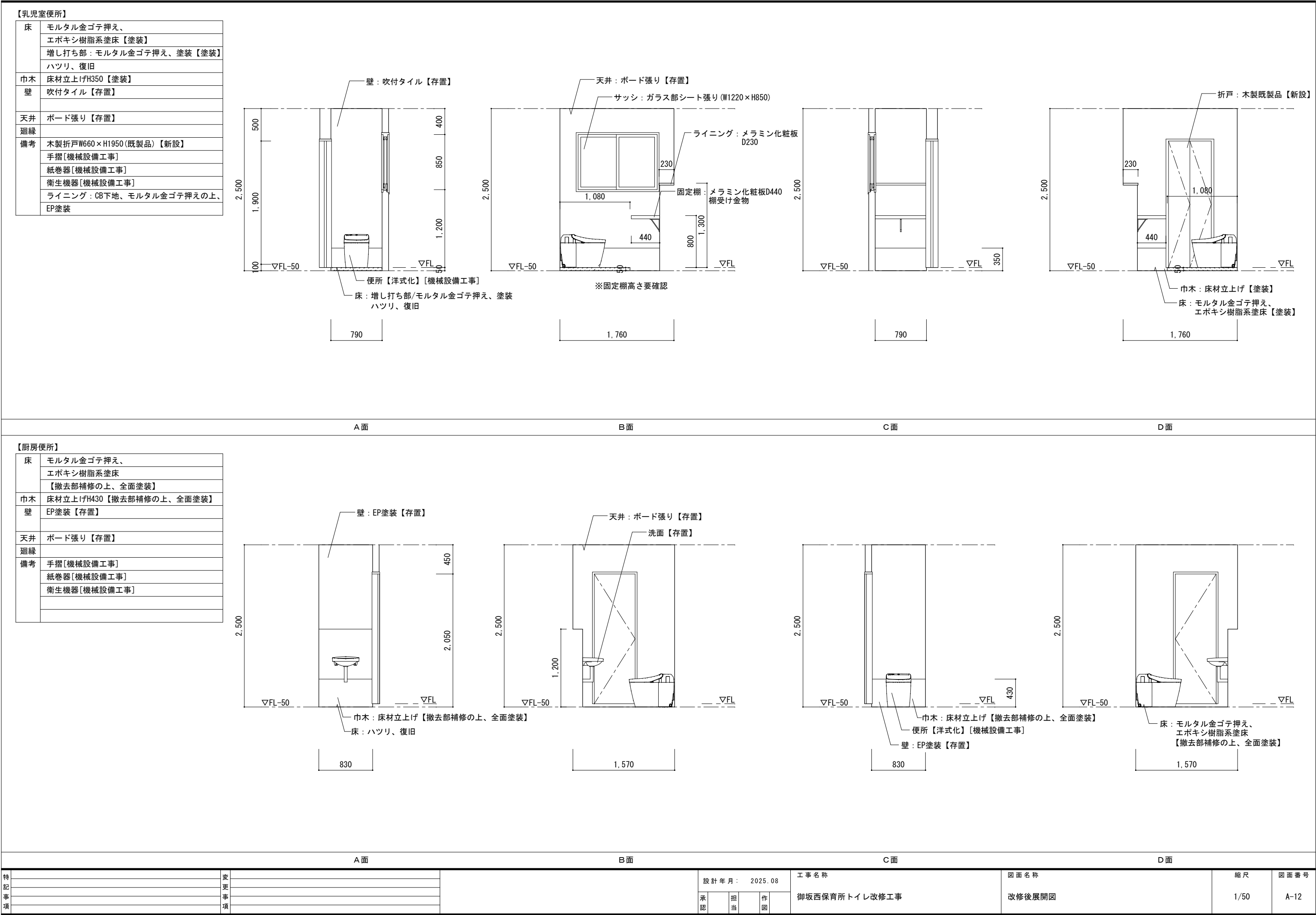
配置図

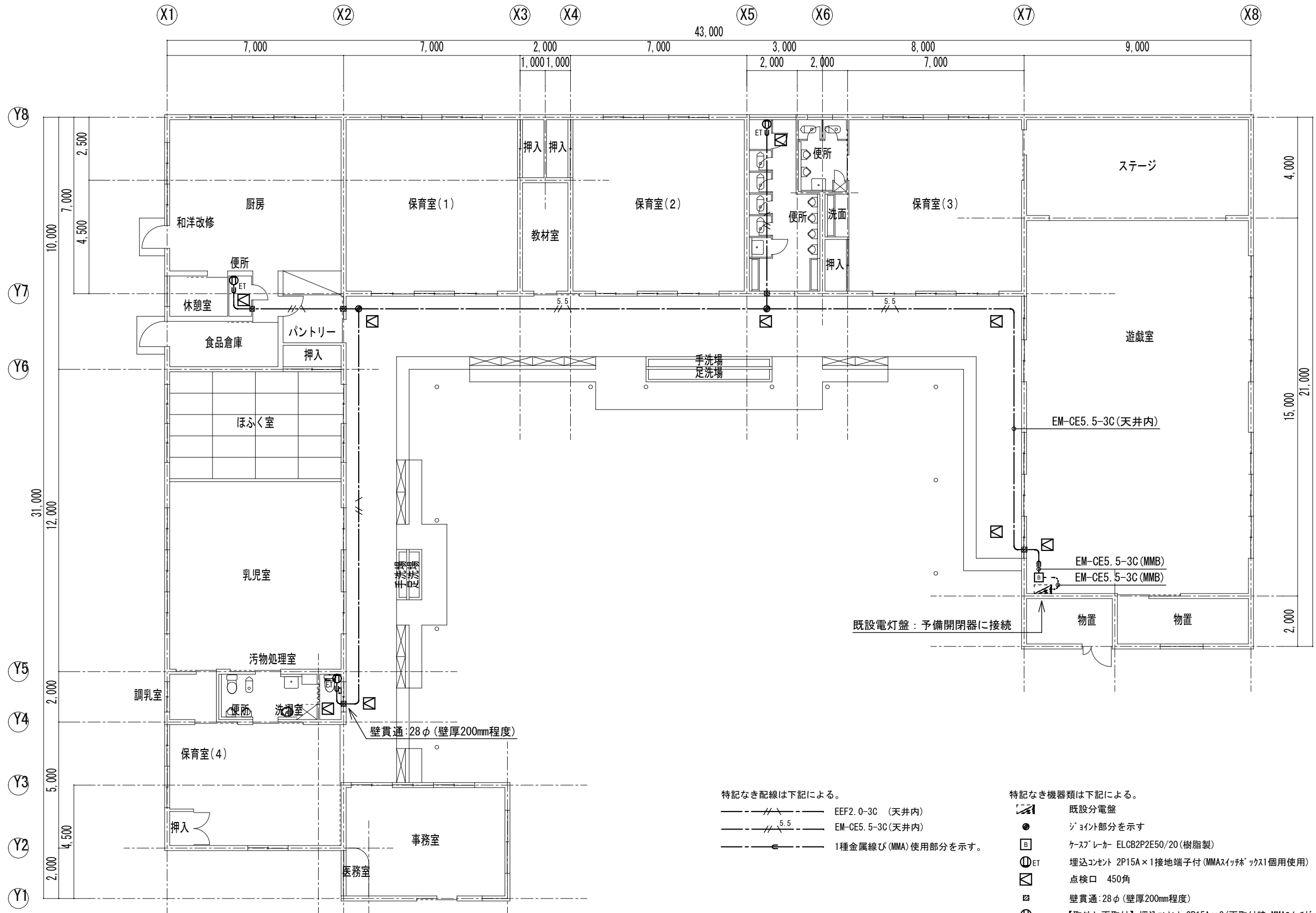
特 記 事 項	変			設 計 年 月： 2025.08				工 事 名 称	図 面 名 称	縮 尺	図 面 番 号
	更										
	事							御坂西保育所トイレ改修工事	案内図・配置図	1/400	A-08
	項										



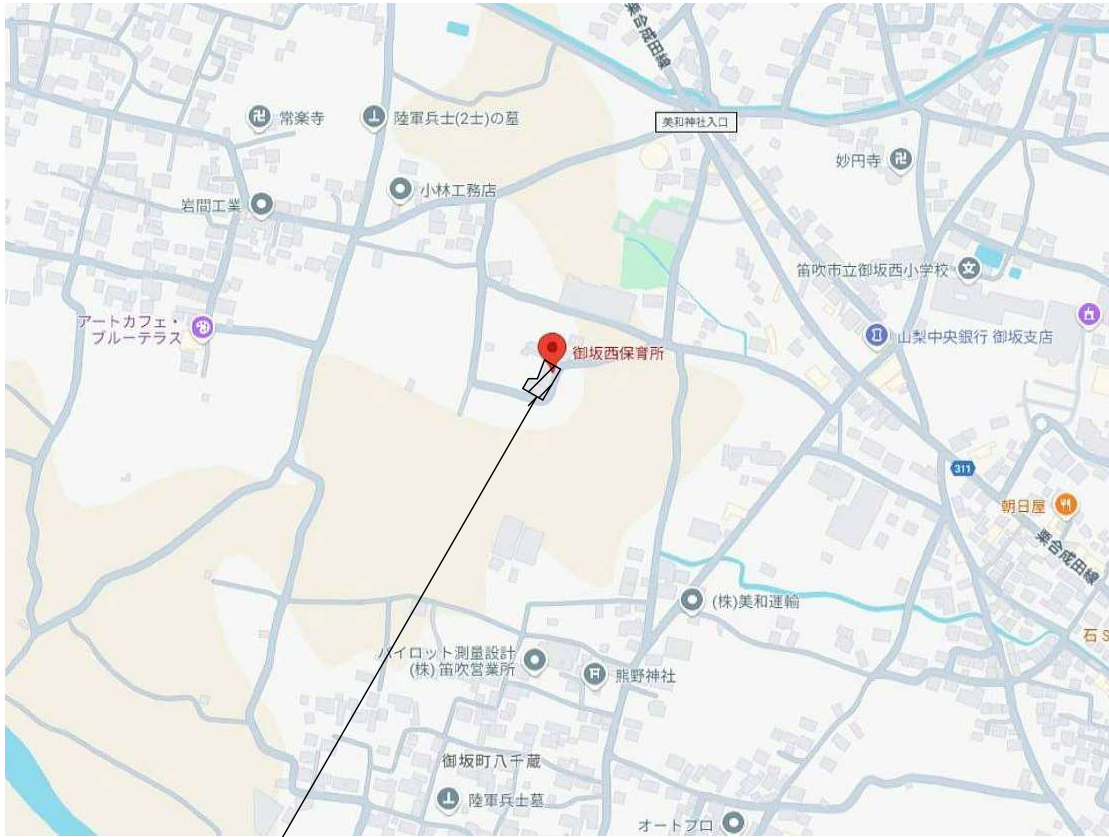
特 記 事 項	変			設 計 年 月: 2025.08				工 事 名 称	図 面 名 称	縮 尺	図 面 番 号
	更										
	事							御坂西保育所トイレ改修工事	平面図	1/150	A-09
	項										





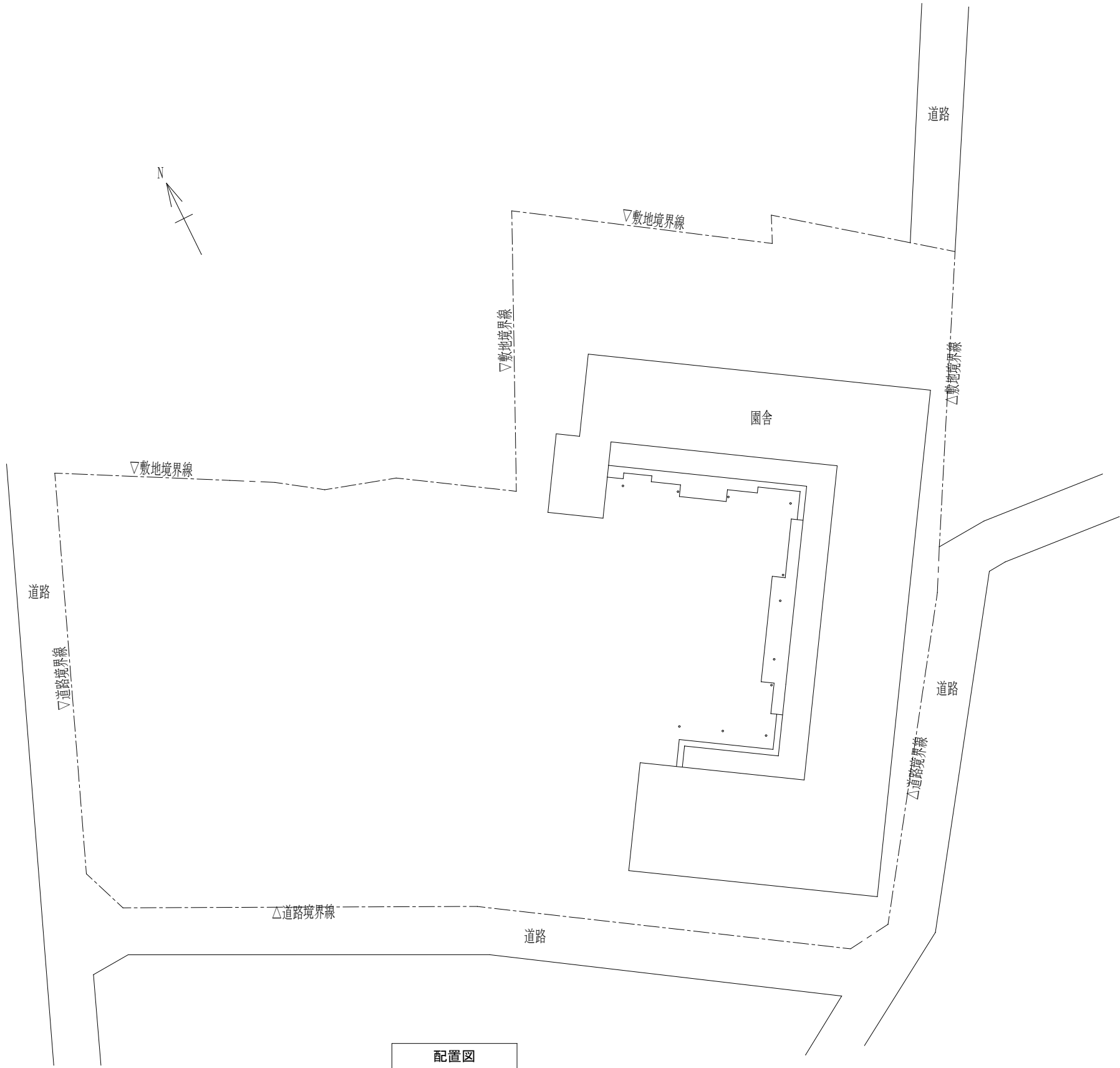


特記仕様書															
A	建築概要	1 工事名称 御坂西保育所トイレ改修工事 2 工事場所 山梨県笛吹市御坂町夏目原870 3 建築面積 延べ床面積 意匠図参照 建築面積 意匠図参照 4 建物構造 鉄筋コンクリート造・平屋建て			I	保 温 塗 装	施 工 場 所								
B	工 事 項 目	1 衛生器具設備工事 2 給水設備工事 3 給湯設備工事 4 排水設備工事	配 管				屋 内 露 出	隠 べ い 部	埋 設 部	屋 外 露 出	備 考				
			給 水 管	a・(ハ)・Ⅶ			c2・(ハ)・Ⅶ		e2・(ハ)・Ⅶ	V B					
			給 湯 管	a・(ロ)・Ⅰ			c2・(ロ)・Ⅰ		e2・(ロ)・Ⅰ						
			排 水 管	a・(ハ)・Ⅶ			c2・(ハ)・Ⅶ		塗 装	V P・V B					
C	優 先 順 位	1 法令、政令、規則等の定め、及び指導 2 現場説明事項 質疑事項 3 特記仕様書 4 設計図 5 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修『機械設備工事共通仕様書 最新年版』			J	工 事 区 分	項 目		建 築	電 気	機 械	別 途	備 考		
D	使 用 機 材	機材はメーカーリストによる他、同等品以上とし、請負者は契約後、監督員の指示に従いリストを作成し、材承諾を受けたものを使用する。			K	図 面 凡 例	名 称		記 号	仕 様 ・ 規 格		摘 要			
E	工 事 範 囲	本設計図は工事の概要を示すものであり、施工者は十分なる理解のうえ、施工図・製作図を提出し、監督員の承諾を得るものとする。請負者は特記仕様書、設計図書等に示す範囲において明記なき部分といえども技術上、施工上、本工事完成に必要なと認められるものは監督員の指示に従って施工する。設計図書及び施工上で疑義ある場合、監督員と協議のうえ、その指示に従う。なお軽微な変更は請負者の責任において行うこと。	給 水 管	— — — — — A			耐衝撃用塩化ビニール管 JIS-K-6742(HIVP)		屋外埋設部分						
			給 水 管	— — — — — A			内外面塩ライニング鋼管 JWWA-K-116VD		屋内埋設部分						
			給 水 管	— — — — — A			内面塩ライニング鋼管 JWWA-K-116VB		上記以外部分						
			給 湯 管	— — — — — A			内外面耐熱塩ライニング鋼管 WHT-LP		埋設部分						
F	提 出 書 類	1 工程表等関係書類一式 4 施工計画書・施工図 7 官公署などの許認可書類 2 メーカーリスト 5 施工写真・完成写真 8 完成機器の取扱説明書 3 製作図及び各種機器承認図 6 完成図書一式 9 非常時連絡先 10 その他監督員の指示による			L	メ ー カ ー リ ス ト (参考)	品 名		メ ー カ ー 名						
G	一 般 事 項	1 本工事施工に関しては、本特記仕様書 設計図書 関係官庁規則により施工する。特記なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修『機械設備工事共通仕様書 最新年版』に準拠するもののほか、監督員の指示に従うものとする。 2 本工事に関する法令、条例及び規則等は、良くこれを厳守し、必要な書類、検査立会い、申請届等は、遅滞なく代行し工事の進捗に支障のないようにする。申請等に要する費用は、全て請負者の負担とする。 3 各種の施工は事前に施工図、製作図、承認図等を提出し監督員の承認を得ること。 4 本工事の着工から竣工まで、監督員の指定する箇所のカラー写真を撮り、サービス版1部を提出する。 5 本工事に於て満水試験、水圧試験、気密試験、通水試験等の各試験は、監督員立会いのもとに行うものとし、試験結果成績表等を提出すること。 6 本工事施工者は、定められた工期内で工事を完了し、完全な状態で引渡し出来るよう、完成と同時に完成図書、必要書類を添えて提出し、完成検査を受けなければならない。 7 本工事請負者は、工事完成引渡し後でも施工方法、器具類の不良等に起因する事故に対しては、責任をもって修復しなければならない。			H	特 記 事 項	1 管材は凡例参照 2 給水管（VB、VD）は管端防食継手を使用する。 3 給水管のパレルニップル及びロングニップルは、塩ライニング鋼管（VB）を使用する。 4 給水管はMT型不凍栓を設け、管内の水を排水できるようにする。 5 ライニング管用のバルブ類はコアコートバルブ、ライニングバルブとする。 6 土間埋設配管は、管種に応じて架空配管と同じピッチにて土間スラブより吊ること。 7 排水管の勾配は屋内1／50屋外1／100を標準とする。 8 陶器の色は標準色同価格品とし監督員と協議の上決定する。 9 図示に表示は無くも、屋外露出施工の給水管・給湯管には、全てに自己制御型の凍結防止電気ヒーターを巻施工を行う。又、監督員の指示により、施工場所を事前に協議する。 10 冷媒用化粧ケースは、SUS製ラッキング仕上げとする。（屋外露出部分のみ） 11 防火区画を貫通する配管の処理は、前後1.0mを不燃材料にて施工のこと。			衛生器具	TOTO株式会社		株式会社LIXIL		
排水金物	株式会社長谷川精工所		伊藤鉄工株式会社				株式会社小島製作所								
パイプ類 バルブ類	JIS規格品		JWWA規格品												
特記事項		変更事項		設計年月： 2025.08	工事名称		図面名称		縮尺	図面番号					
				承認 担当 作図	御坂西保育所トイレ改修工事		特記仕様書		NS	M-01					



工事場所：笛吹市御坂町夏目原870

案内図



配置図

特 記 事 項	変			設 計 年 月： 2025.08				工 事 名 称	図 面 名 称	縮 尺	図 面 番 号
	更										
	事				承	担	作	御坂西保育所トイレ改修工事	案内図・配置図	1/400	M-02
	項				認	当	図				

撤去

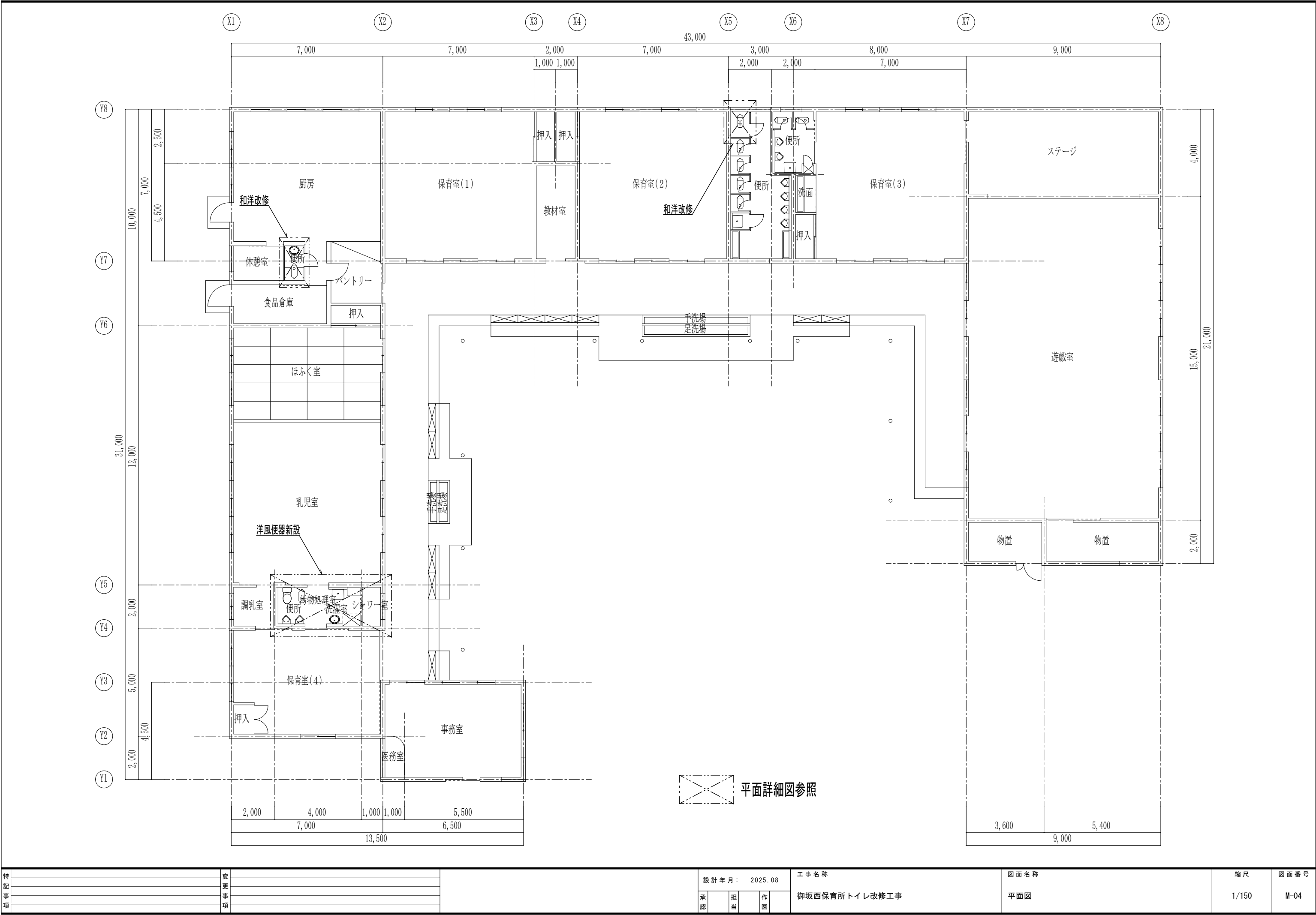
衛 生 設 備 器 具 表				
名 称	型 式	電 源（参考）	数	設置場所
和風便器			2	厨房便所・便所
紙巻器			2	厨房便所・便所

新設

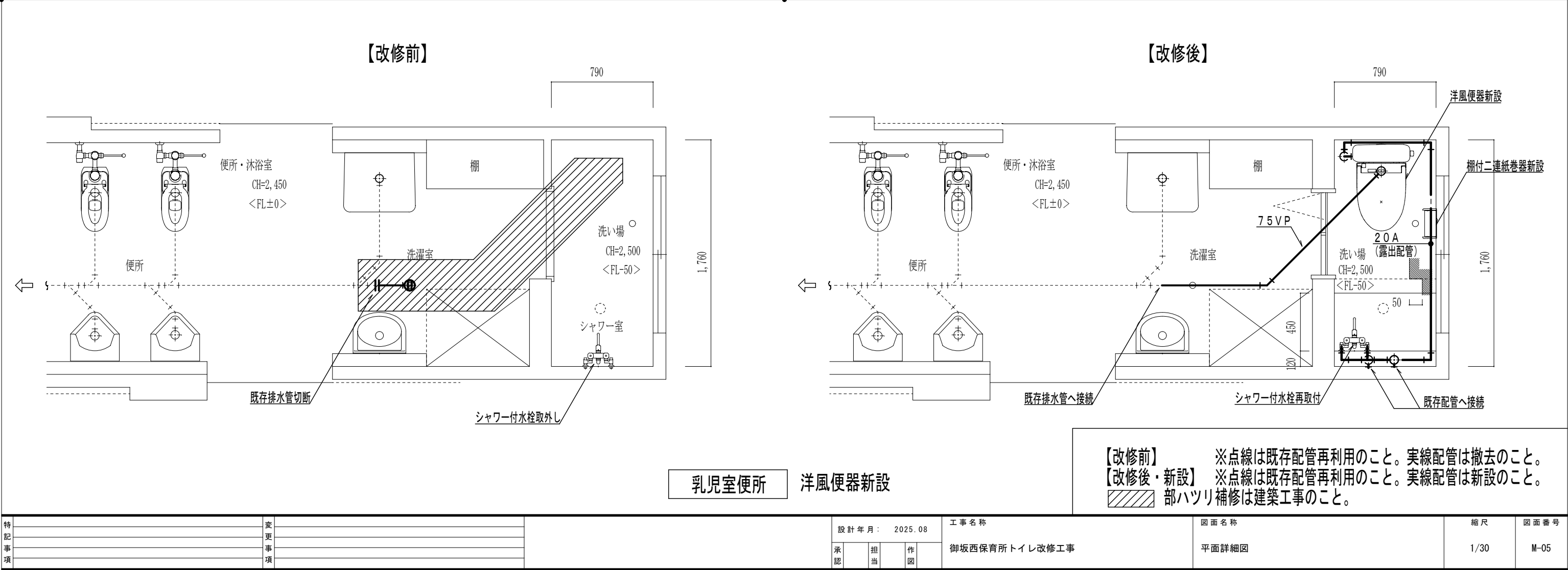
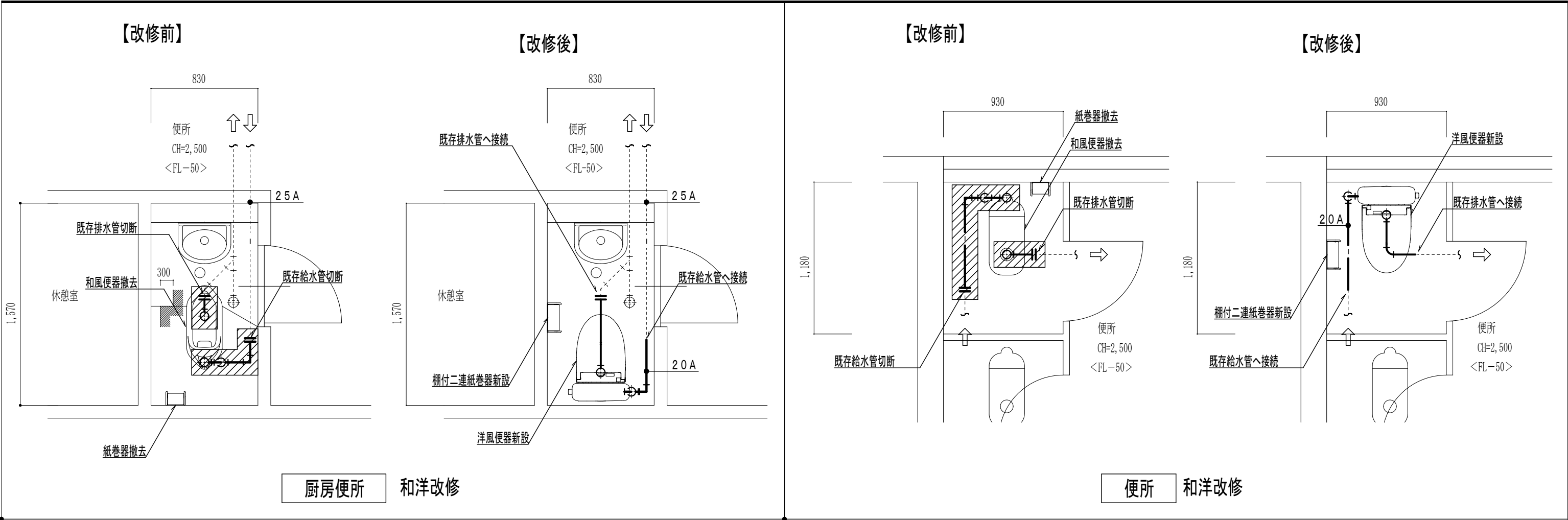
衛 生 設 備 器 具 表					
名 称	参考型番（TOTO）	参考型番（LIXIL）	電 源（参考）	数	設置場所
洋風便器	CFS498BCK TCF5534AU（ウオッシュレット）	BC-P110SMA DQ-PA150CH CW-PA21LQE-NE-R1	1φ×100V×311W	3	厨房便所・便所・シャワー室
棚付二連紙巻器	YH702	CF-63HST		3	厨房便所・便所・シャワー室

取外し・再取付

衛 生 設 備 器 具 表				
名 称	型 式	電 源（参考）	数	設置場所
シャワー付水栓			1	シャワー室



特 記 事 項	変			設 計 年 月： 2025.08				工 事 名 称	図 面 名 称	縮 尺	図 面 番 号
	更										
	事							御坂西保育所トイレ改修工事	平面図	1/150	M-04
	項										



【改修前】

※点線は既存配管再利用のこと。実線配管は撤去のこと。

【改修後・新設】

※点線は既存配管再利用のこと。実線配管は新設のこと。

部ハツリ補修は建築工事のこと。